

今回の台風18号の影響により、大分川ダム上流域において、24時間雨量が326mmとなるなど、昭和56年の観測開始以降2番目となる流入量(約450m<sup>3</sup>/s)を記録しました。そこで、「①現在(建設中)の大分川ダムの効果」、「②大分川ダムが完成していたと仮定した場合の効果」について推算しました。

## 【①現在(建設中)の大分川ダムの効果】

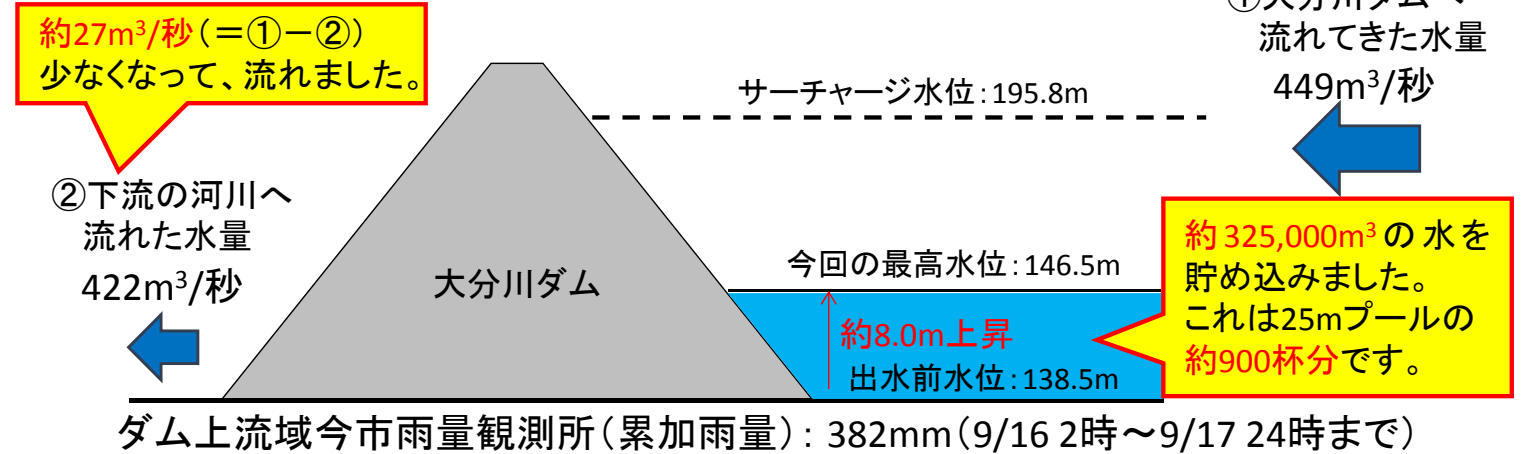
- 今回の洪水期間中において、**最大約32.5万m<sup>3</sup>(25mプール約900杯分)の水を貯留**し、下流の洪水被害の軽減を図ったと考えられます。 ごまづる めぐすの
- ダム下流の**胡麻鶴地点(大分市廻栖野付近)**では、**約6cmの水位を低減**させる効果があったものと推測されます。

**胡麻鶴地点の水位**  
 (大分川合流点より約6km上流、七瀬川洪水予報地点)  
 ダム整備前: 4.50m  
 ダム整備後: 4.44m  
 (建設中)  
 →約6cmの水位低減



大分川流域図

### ◆大分川ダムの状況(9月17日15時30分 **最大流入時点**)



## 【②大分川ダムが完成していたと仮定した場合の推算】

○今回の洪水期間中において、仮に、大分川ダムが完成していたと仮定※した場合、最大約608万 $m^3$ (25mプール約16,900杯分)の水を貯留し、ダム下流の胡麻鶴地点(大分市廻栖野付近)では、約0.83mの水位低減効果があり、避難判断水位を超過しなかったものと推測され、下流の洪水被害の軽減を図っていたと考えられます。

※大分川ダムが完成し、平常時の貯水状態(常時満水位)であると仮定。

**胡麻鶴地点の水位**  
 (大分川合流点より約6km上流、七瀬川洪水予報地点)  
 ダム整備前: 4.50m  
 ダム整備後: 3.67m  
 (完成時推算)  
 →約0.83mの水位低減

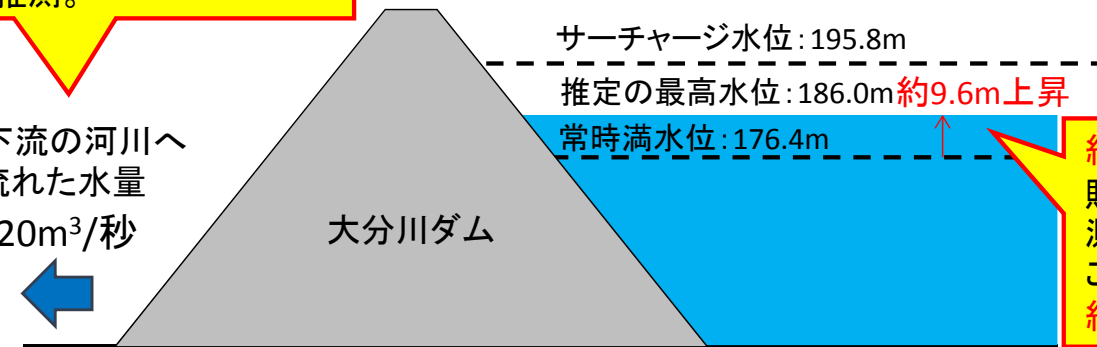


大分川流域図

### ◆大分川ダムの状況(9月17日15時30分 最大流入時点)

約330 $m^3$ /秒(=①-②)  
 少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ流れた水量  
 120 $m^3$ /秒

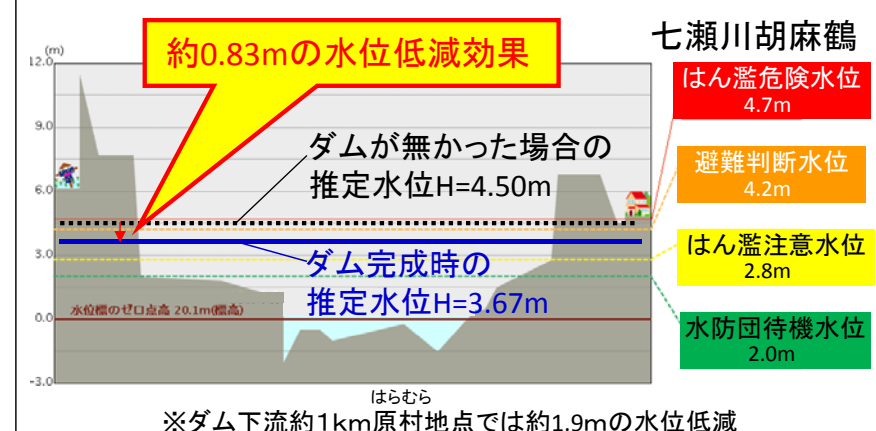
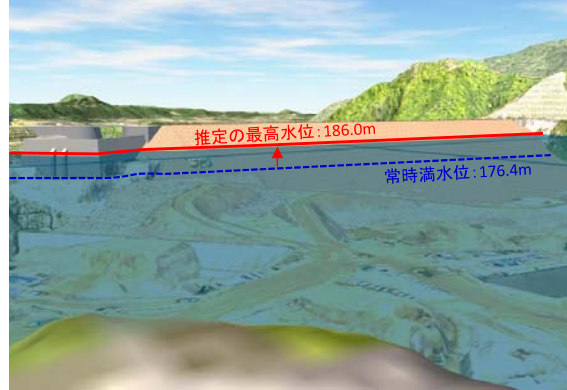


速報値  
 ①大分川ダムへ流れてきた水量  
 449 $m^3$ /秒

約6,082,000 $m^3$ の水を貯め込んでいたと推測。  
 これは25mプールの約16,900杯分です。

ダム上流域今市雨量観測所(累加雨量): 382mm(9/16 2時~9/17 24時まで)

### ダムが完成していた場合の貯留イメージ



※ダム下流約1km原村地点では約1.9mの水位低減